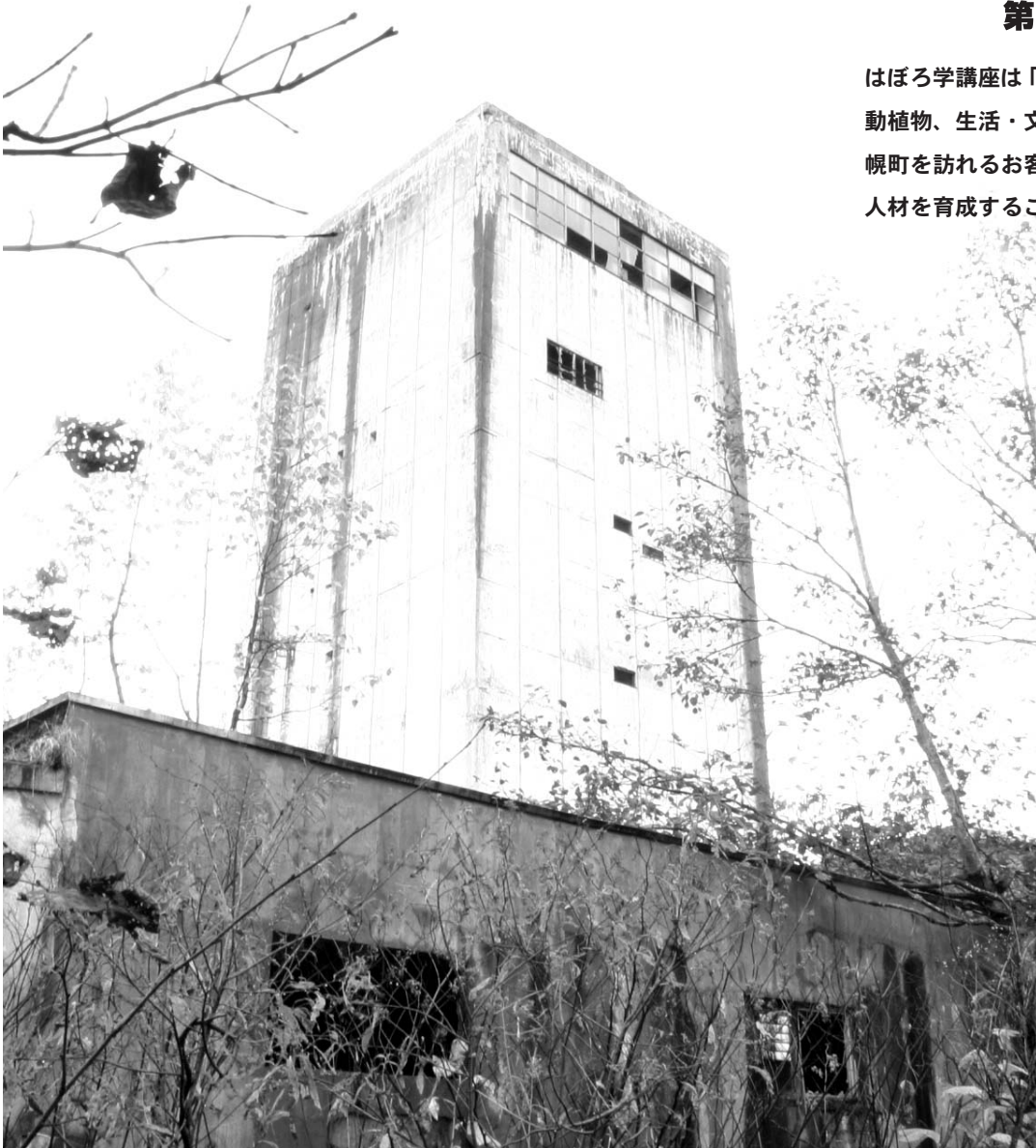


あなたはどれだけ
はぼろのことを知っていますか？

第6回

はぼろ学講座は「羽幌の成り立ち、自然・動植物、生活・文化を総合的に学び、羽幌町を訪れるお客様にまちを紹介出来る人材を育成すること」を目指しています



草木が密生する小高い山林の中腹に、現在もひっそりとその姿を残す羽幌本坑運搬立坑跡。

羽幌炭鉱の歴史

第11回はぼろ学講座は「羽幌炭鉱跡地」と題し、「三炭周遊観光」を行っている沿岸ハイヤーの工藤俊也さんを講師にお招きして、10月4日に中央公民館で開催されました。

最盛期には現在の羽幌の全人口を超える1万2千人が暮らし、昭和45年に閉山した羽幌炭鉱。講義はその在りし日の姿と、夢のように跡形もなく原野となってしまう現在の写真を対比させながら進みました。

当時は6000人を収容し、宝塚歌劇団の公演や東京と同時に封切の映画を無料で観ることができたという築炭会館や賑わう街の様子など、写真で知る当時の炭鉱は現在では想像もつかないような繁栄ぶり、当時を知る人は懐かしみ、また知らない若い世代は感嘆の声をあげていました。

その炭鉱も現在では運搬立坑や、貨車に石炭を積み込むホッパー（貯炭場）、炭鉱住宅などがかるうじて残っているに過ぎません。築炭会館に至っては、現在は映写機を乗



運搬立坑に隣接する選炭工場の内部。当時ここには日本でも最先端の機器が数多く導入されていたそうです。機器を搬出するために壁には大きな穴が開けられていました。機器が全て搬出された後の姿はまるで迷宮のようです。



周囲では熊が頻繁に目撃されているため、笛や鈴、爆竹を鳴らしながら慎重に進む必要があります。



運搬立坑内部の現在の姿。上から事務所、浴場入口。左は地下深くから石炭を運んだ運搬エレベーター。建物上層部まで続く鮮やかなピンク色の鉄骨が印象的です。

午後からは、羽幌炭鉱の中で一番人口が多く、最盛期には6000人を超えた築別炭坑へ向い、太陽小学校の円形体育館や当時近代的な住宅として建設されたものの、ほとんど住む事もなく廃墟となった炭鉱住宅などを見て回りました。昔の商店街のなごりはどこにもなく、大勢の住民が住んでいた住宅街も跡形もなく消え去っていました。

草木をかきわけながら、運搬立坑や選炭工場、貯炭場などを見学、長い時間をかけて朽ち果てたその姿を、参加者たちはため息まじりに眺めていました。

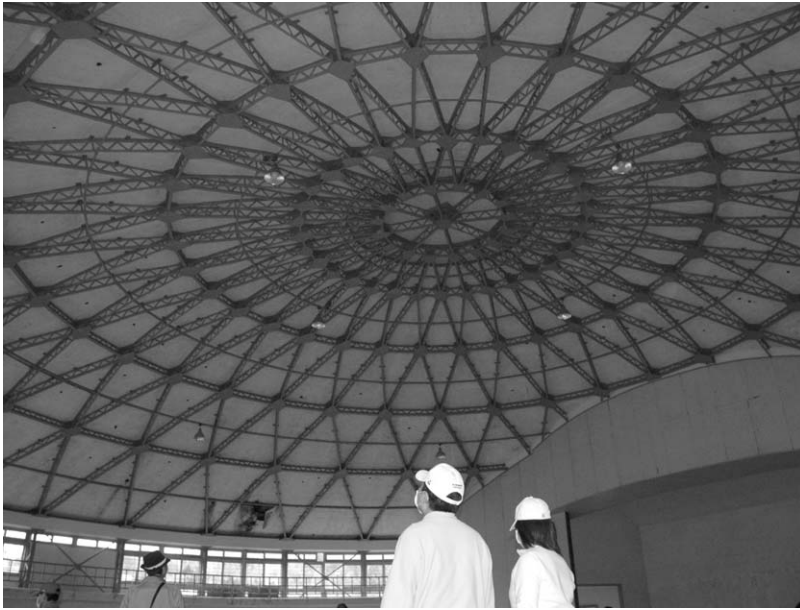
受講生ら35人は中央公民館をバスで出発し、まずは曙の羽幌炭鉱羽幌本坑へ向かいました。

受講生ら35人は中央公民館をバスで出発し、まずは曙の羽幌炭鉱羽幌本坑へ向かいました。草木をかきわけながら、運搬立坑や選炭工場、貯炭場などを見学、長い時間をかけて朽ち果てたその姿を、参加者たちはため息まじりに眺めていました。

羽幌炭鉱の跡地をめぐる

続く10月21日は、炭鉱跡地めぐり」として、実際に現在の炭鉱の姿を見学することになりました。引き続き工藤俊也さんにガイド役をお願いし羽幌本坑・築別炭坑を巡ります。

せるコンクリートの台だけが、まるで墓標のように残っているだけでした。



旧太陽小学校の体育館。現在でも珍しい円形の建物です。ここはかつて緑の村として利用されていたので、ご存じの方も多いかもしれません。



ホッパー(貯炭場)の内部。ここを鉄道が通り、天井部に見える搬入口から石炭が運び込まれていました。実は公民館の横に常設されている機関車は、ここで使われていたものなのです。



第11回の講師に続いて、炭鉱跡地めぐりのガイドをお願いした講師の工藤俊也さん。

羽幌炭鉱の人口推移

年度	築別炭鉱	羽幌本坑	上羽幌坑	炭坑計	羽幌町全体
昭和35年	5,840	2,426	2,111	10,377	28,168
昭和40年	6,182	3,682	2,592	12,456	30,266
昭和45年4月	4,338	4,392	2,732	11,462	-
昭和45年9月	607	755	569	1,931	22,000
昭和47年	2	55	42	99	15,154
平成12年	0	0	23	23	9,364

木々に囲まれて少し見えにくいですが、かつての築炭会館があった場所には、このコンクリートの映写機の台だけが残されています。



はぼろ学講座のお問い合わせは、町民課までご連絡ください。

☎ 0164-62-1211(内線105)

✉ choumin@town.haboro.hokkaido.jp

なお、今回は関係機関に許可をとって実施しています。建物内では天井の崩落や滑落の危険性もありますので立入りはお止めください。

次回は12月7日に「海鳥センターの見所」と題して、石郷岡卓哉さんを講師にお迎えし、北海道海鳥センターで開催します。どうぞご参加ください。

一時は羽幌町の半分に近い人口を抱え繁栄を極めていた羽幌炭鉱が、閉山と共に跡形もなく消えてしまった姿に参加者のみなさんは驚きを隠せないようでした。参加者の中には炭鉱で生まれ育った方や祖父母が炭鉱で働いていたという人もいましたが、今は昔となった風景をただ悲しく見つめるしかありませんでした。